

平成 30 年度石油コンビナート等防災体制検討会（第 3 回）

議事要旨

1 開催日時

平成 31 年 2 月 6 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分

2 開催場所

東京都千代田区霞が関一丁目 3-1

経済産業省別館 2 階 227 会議室

3 議事要旨

検討会報告書（案）について

● 今回の検討会で調査した県ではしっかりと訓練が行われているようだが、実際に現地調査をしてみているかがか。

→ 県によって異なる状況の中で、それぞれの特徴に応じた訓練を行っているという印象を受けた。

● 今回紹介された事例では、消防庁の「石油コンビナート等防災本部の訓練マニュアル」に示されている標準災害シナリオを生かした訓練を行っているようだが、標準災害シナリオに関する要望・意見はあったか。

→ 訓練において、災害発生時の状況を想定する中で、関係機関の動きがわかりにくいといったことや、実際にある施設に応じた設定をしなければならぬため標準災害シナリオと合わないところがある、との声があった。

● ブラインド型の図上訓練が随分行われるようになったことは良いことである。

● 訓練にあたっては、各自治体が実情に合わせてシナリオをアレンジする必要がある。

● 県では担当者が数年毎に代わるが、標準災害シナリオがあることによって、このシナリオをベースに様々な内容の訓練を行うことができるので、大変助かっている。

● 災害時に共有されにくい情報として、道路の状況がある。

情報を利用する側は、災害対応にあたる多くの機関であり、一刻も早く情報がほしい。県が記者発表の段階で道路情報をとりまとめるが、タイムラグがある。

クラウド上に情報を保存し、情報を利用する側が自身で情報を収集する仕組みができるようになるとよいと思う。

● 石油コンビナート等防災本部の役割として、指揮をする幹部に対して、石油コンビナートで起こり得る災害とその対応についての意識付けを行うことがあり、その際に実際の災害の映像を活用できると非常に良い。そうした視点から、映像の活用について検討してほしい。

● 調査で得られた知見として、ブラインド型の訓練では、災害対応についての気付きが重要である旨の記述を追加していただきたい。

● 報告書（案）については、概ね了承され、細かい修正については座長一任とされた。